「青少年のための科学の祭典2002」奈良大会

「青少年のための科学の祭典2002」奈良大会事務局
理科教育講座・助教授　森本　弘一

「青少年のための科学の祭典2002」奈良大会が、二〇〇二年十月二十六日（土）、二十七日（日）の二日間、本学で開催されました。

「青少年のための科学の祭典」奈良大会は五回目、本学での開催は二回目です。これは、青少年の理科離れを防ぐために十年以上前から全国的に開催されているものです。実験、工作の数は四十八、参加者は約二千人でした。実験工作は、本学の教官だけでなく、奈良県内の小学校、中学校、高等学校、大学の理科の先生が行いました。またこれは、フレンドシップ事業の一つとして開催され、本学の学生約五十人が実験、工作の補助をしました。

講演「くもの糸の不思議」

■くもの糸の不思議

大会記念講演では、奈良県立医科大学の大崎茂芳教授が、クモの生態から糸の構造、安全率についてまでも説明されました。参加者が小学生から大学生までと幅広いことを考慮して、たくさんのきれいなスライドを見せてくださいました。

講演の始めには、能や歌舞伎で使われている蜘蛛の糸を実演されるパフォーマンスを見せられるなど、聴衆を飽きさせない工夫が随所になされていました。また、研究結果だけでなく、どのように問題意識をもち、それをどう解決したのかといった研究者の生の姿や、研究の面白さを話されました。興味深い話で講演のあとも質問者が列をなしていました。

■実験工作

実験は、山田ホール、生協前のアゴラ（広場）、工作は、物理大実験室、生物大実験室、地学大実験室、書道実習室、美術教育実習室で行われました。工作はとても人気があり、毎年、待ち時間が長いのですが、今年は、工作の場の数を増やしたので、それほど待つこともなく多くの子どもたちが楽しんでいました。

工作はハンダゴテを使っての手づくりオルゴールや、簡単なセンサーを使った科学おもちゃ、空き缶を用いた楽器づくりなどに人気があったようです。

実験では、利き水やチョコレートづくり、カイコの糸くりなどに人気があり、子どもたちが並んで順番を待っていました。

今年はステージショーも行いました。本学の卒業生が、魅力あふれる科学マジックを見せてくれ、種明かしをしてくれるなど、子どもたちは大喜びでした。

カイコの糸くり

■学生たちにも貴重な体験！

本学の学生は、一回生、二回生が実験工作の補助をしました。たくさんの子どもたちと触れ合い、質問を多く受ける光景もあり、教育実習に行く前に貴重な体験ができたのではないかと思います。

また、講師となった先生方の様子を見て、授業を行う際に、どれだけの準備が必要で、子どもにどう接したらいいのかといったことなどを少しでも垣間見ることができたのではないでしょうか。

このような大会を行うには、多くの人の協力が必要です。ご協力いただいた方々に、この場を借りてお礼申しあげます。